

今までの流域委員会で
いただいた意見のまとめ

平成19年3月19日

項目	これまでの流域委員会における意見等
治水	・堤防整備において未整備区間（10%）が残っている理由は
治水	・藁科川の堤防は弱い区間あり
治水	・「緊急対策特定区間」における事業は、安全性を重視したうえで生態系や景観等へ考慮が払われるものであり、河川管理者の考えをベースにして議論すべき
治水	・治水対策が最優先
治水	・霞堤と本堤とに挟まれた地域はかつては宅地ではなかったが、住民に対して霞堤の存在意義を十分理解してもらうべき ・霞堤を締め切るかそのまま保全するのをはっきりすべき
治水	・災害がないことに甘んじているが、土木技術で自然災害は完全に防げないことを認識すべき ・ハザードマップ等で危険性を周知させることが必要
治水	・市と県と国が連携をとって防災情報を提供していくことが必要
土砂管理	・水系一貫した土砂管理が重要
土砂管理	・崩壊地の箇所数、面積、生産土砂量の把握を
土砂管理	・三保の海岸侵食は治山事業（砂防事業？）の影響 ・海岸侵食を抑制するために治山事業（砂防事業）をやめることも一つの方法（大谷崩周辺の住民は集団移転）
土砂管理	・土砂流出を防止するためには農水省（治山事業）との省庁間連携が重要 ・崩壊との関連を把握するため、人工林と天然林の割合、手入れ不足の人工林の状況を整理
土砂管理	・砂防堰堤の影響により巨れきが下流へ流下していないので、少しずつ流下させることが必要（魚類の生息に影響） ・粒径のバランスが必要 ・昔は5k付近には大きな石があった、安西橋付近も砂に変わった、玉機橋下流では人が見えない程の
土砂管理	・藁科川は河床上昇して蛇行がなくなり、砂利が堆積
土砂管理	・安倍川の河床変動を予測したうえで、必要な掘削を行うべき ・直轄区間上流の河床低下が下流へ徐々に伝播すれば河道掘削しなくても良いのでは

項目	これまでの流域委員会における意見等
土砂管理	・ 砂利採取開始以前からの河床変動の推移を整理すべき
砂利採取	・ 砂利採取の要望があった場合の対処方針は
砂利採取	・ 砂利採取は影響を十分に把握したうえで慎重にすべき ・ 砂利採取により、南安倍川橋下流ではハゼ科魚類の一種（絶滅危惧ⅠA類）が激減
河川環境	・ 河川環境を考えるには川の連続性が重要 ・ 砂防堰堤への魚道設置や「流す砂防」への転換が必要
河川環境	・ 大河内砂防堰堤の魚道は、遡上ができるのか疑問
河川環境	・ 工事で掘削した区間を2～3ヶ月後に埋め戻す工法では住み着いた魚が全滅する ・ 昔からある淵はなくさないでほしい
河川環境	・ 150号線の左岸の水衝部にある蛇籠は非常によい ・ 木工沈床は魚にとって非常によい
河川環境	・ 舟山の下流に4ヶ所ぐらいの水制は魚巢になるため保全してほしい
河川環境	・ 河道掘削にあたっては、河川に生息する生物に配慮すべき
河川環境	・ アユが食べる珪藻が減少して藍藻に変わりアユが減少
河川環境	・ カワウからアユを守るため隠れ家となるような穴の開いたブロックを入れてほしい
河川環境	・ アユの稚魚にとっては、右岸は丸子川の水質が悪いので左岸川へ誘導すべき
河川環境	・ 淵があれば自然と澇筋が固定されるのでは ・ 澇筋を固定すれば淵が絶対できる ・ 蛇行させて保水性を持たせることが重要
河川環境	・ 治水と環境保全は相反するところもあるが、それらとの調整は必要

項目	これまでの流域委員会における意見等
河川環境	・河川改修により淵のよどみやワンドが消滅しメダカが住めない川になった
河川環境	・安倍川筋では右岸側の1支流の本流との合流点付近、藁科川筋では右岸側の複数の小流のごく一部に生息地が限られていたスナヤツメ（絶滅危惧ⅠA類）が生息しているが、保護のため河川改修にあたっては十分な配慮が必要
河川環境	・安倍川本流と右岸側支流の合流点において、ホトケドジョウ（絶滅危惧ⅠA類）がごく少数確認されたことがある（安倍川水系での確認はここだけ）が、河川改修で生息環境は変容した
河川環境	・イドミズハゼの一種（静岡県レッドデータブックの要注目種）は、かつて藁科川の吉津地先で採集されたことがあるが、保護のため河川改修にあたっては十分な配慮が必要
河川環境	・南安倍川橋下流にもハゼ科魚類（絶滅危惧ⅠA類）が生息しているが、砂利採取により壊滅状態となったことから、この付近の砂利採取は避けるべき
河川環境	・絶滅危惧種のうち、特にカテゴリー区分の高いものについては、種名、具体的な生息場所などについては秘匿する必要あり（種名では「ハゼ科魚類の一種」、場所では「下流域から河口にかけて」等）
河川環境	・河川環境は生物や水質だけではなく、空気や風や石といった要素も大切
水質	<ul style="list-style-type: none"> ・水の白濁化は山地崩壊による土砂流入が主な原因 ・関係省庁が一体となって取り組むべき
水質	・農業用水の取水のため、ブルドーザー等で砂利を移動させると水が濁るのでやめてほしい（パイプなどで上流から伏流水を持ってくる等の工夫を）
水質	・澇筋の存在が白濁を助長しているのでは
水質	<ul style="list-style-type: none"> ・下流で珪藻類が復活させるには下水道整備が必要 ・足久保川より下流の水質が悪化しており、流域の下水処理問題が影響
水質	<ul style="list-style-type: none"> ・濁水の長期化が問題 ・大きな砂利があれば濁らないのでは
水質	・大河内砂防堰堤の下流側が常に白濁化しており、堰堤下流にブロックを入れて衝撃を緩和すれば解消できるのでは
水質	・静岡市の水道水がミネラルウォーターや浄化水と同等であることをPRすることが必要

項目	これまでの流域委員会における意見等
水循環	<ul style="list-style-type: none"> ・伏流水をどう守るかが重要 ・流量が減少したと伏流水との関係の把握を
水循環	下河原小学校の前の湧水を保全してほしい
利水	<ul style="list-style-type: none"> ・流量（表流水）は具体的にどの程度か
利水	<ul style="list-style-type: none"> ・牛妻より下流は特に伏流化して表流水が少なく、排水により水質も悪化、取水制限も考慮すべき ・水深が浅くなり、川に遊び場がなくなった
利水	<ul style="list-style-type: none"> ・水枯れ対策は整備計画へどう反映するのか
河川利用	<ul style="list-style-type: none"> ・河岸に沿ってベルト状の植栽帯がほしい ・河川敷に駐車場を整備し、川に近づけるようにしたい
河川利用	<ul style="list-style-type: none"> ・白濁化を解消して、子供たちに自然に遊ばせてもらいたい ・子供が川に近づけるよう、公園や護岸がほしい
地震・津波対策	<ul style="list-style-type: none"> ・「緊急用河川敷道路」はいつまでにどう整備するのか、緊急性は
地震・津波対策	<ul style="list-style-type: none"> ・地震・津波対策の具体的な事業内容は
景観	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力的な景観づくりの視点も必要 ・景観を楽しめる東屋のような憩いの施設も必要 ・幹線道路や鉄道の橋梁からの景観も重要
地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすいパンフレット等を配布して多くの人から意見を聞けるような工夫が必要 ・治水の歴史等もさらにPRする必要あり
地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ・安倍川と静岡の町との関係について市民が学ぶことが大切 ・安倍川の水の恵をもっとPRすべき
地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ・古文書や技術資料（地質調査、遺跡調査）に基づき、プロの目で河川管理をすることが必要
地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ・山地の保水力も重要であることをPRすべき

項目	これまでの流域委員会における意見等
地域連携	・マスコミの役割はこれまでの事業を評価して、皆さんに広く知ってもらうこと
地域連携	・河川工事の必要性を十分説明すれば、地元の反対等はない
地域連携	・大きなイベントよりも、地道な学習活動や出前講座、PR等を継続的に行うことが大切
地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ・豊富な地下水は安倍川の宝、川面の清流だけではなく、地下を流れる水等いろんな流れ方をするといいことをPRすべき ・流域とは別に、安倍川の水を利用する「安倍川文化圏」を対象に情報発信することも必要
地域連携	<ul style="list-style-type: none"> 子供たちが総合学習の中で学ぶ場所があれば、市民と川と海のつながりがでてる ・鶴見川のようなビジターセンター（流域活動センター）がほしい
地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなで植林するなどのボランティア活動が必要、そのためには“安倍川親水インストラクター”等を作り人材育成していくシステムも必要
地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ・NPO、活動団体、学校等との協働が必要 ・川と地域住民との関係などを取り入れた計画は良いこと
地域連携	各活動団体や住民を国としてうまくネットワークしていただき、協働の輪をつなげていくためには、市民側でまとまっていくための“中間組織”が必要だと思う。それをちゃんと支えていくには、河川事務所や静岡市がうまく調整し、各団体がネットワークされれば力を発揮してくれると思う。